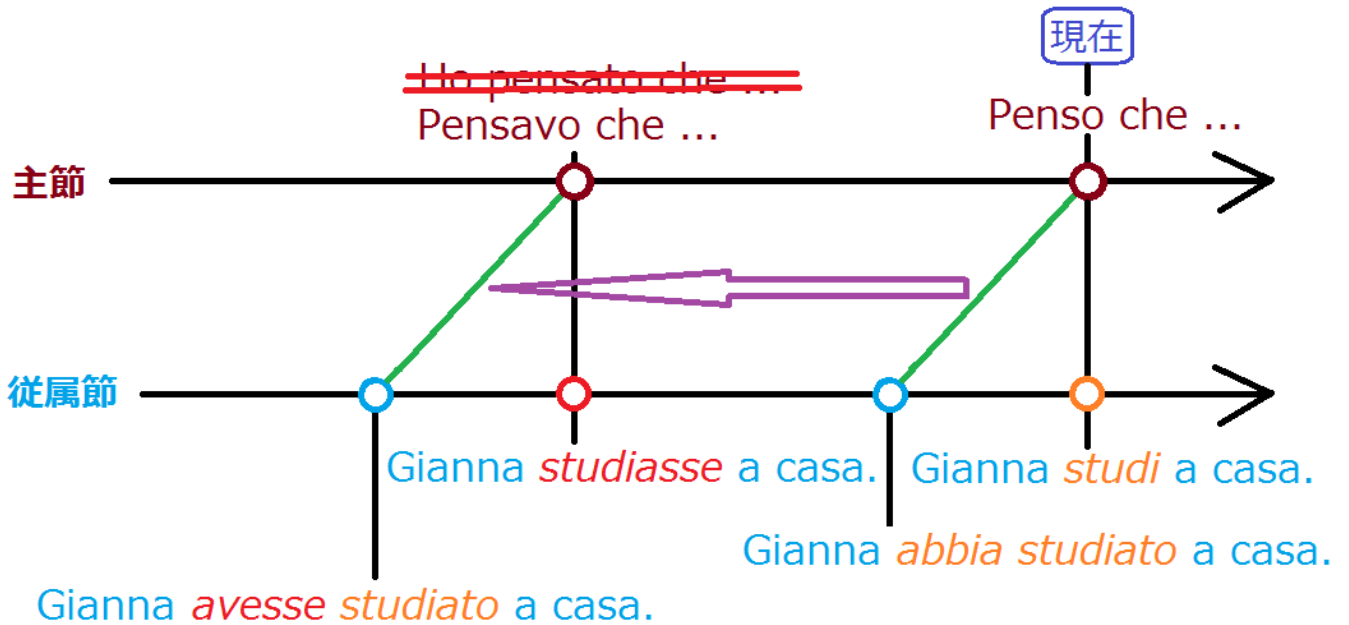


4. 時制の一致 ④ 運用をマスターするために

- 全部で 18 種類にもなる主節と従属節の時制の組み合わせは、最初からそのすべてを使いこなそうとするのではなく、とりあえずは最も基本的かつ覚えやすい 4 タイプに限定して出発するのが得策。



まず、主節の動詞が現在か過去かによって二分し、そのそれぞれで、従属節が主節と同時かそれとも主節以前の過去かによって二分する。

こうすることによって常に二者択一の問題のみになり、判断が容易になる。慣れるに従って段階的に選択肢を増やしていき、最終的に 18 タイプ全部を使いこなせるようにすれば OK。